

Q4 授業における4領域8能力の評価は、どのように進めればよいのですか？



A: 次の3つのポイントで進めていきます。

- ① 『何を学ぶか』『どのように学ぶか』の両方の主眼を設定します。
- ② 設定した両方の主眼を共有する学習場面を設定します。
- ③ 授業の終末に3分程度で行う評価を工夫します。

1 キャリア教育における評価の考え方

(1) 評価の必要性

<手引Ⅰ:Q8参照>



■ 手引Ⅰでも説明していますが、キャリア教育を進めていく際、学校や学年でのキャリア教育の目標を立てて進めていくことが大切です。教育実践における到達目標である「ねらい」と期待目標である「願い」を明確にして、その成長の度合いをチェックすることは、指導者にとっても学習者にとっても大切になってきます。

◆ 学習者(子ども)にとっての評価の意味



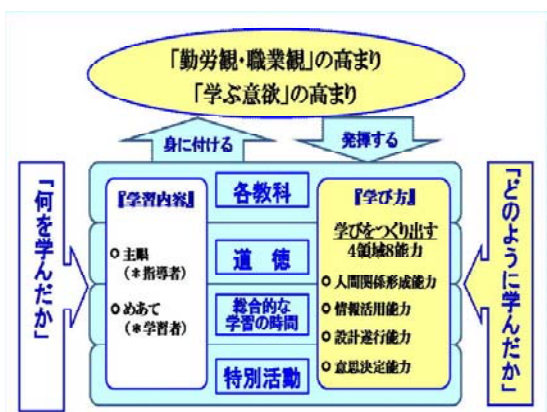
- 『どのように学んだか』、その過程を振り返ることができる
- 単元を通してどのような力が身に付いたのか自覚できる
- 自分の学びを価値付けることができる

☆ 学びの価値付け
<手引Ⅰ:Q2参照>

● 「キャリア」は、学習や経験の「価値付け」を重ねることで形成されます。学習者にとっては、自分の学び『何を学んだか(学習内容)』『どのように学んだか(学び方)』の価値付けが、評価として最も重要になります。

(2) 評価の基本的な考え方

■ 学びをつくり出すキャリア教育において、評価内容にあたる『何を学んだか(以下「学習内容」)』『どのように学んだか(以下「学び方」)』の関係は右図のようになります。これらの評価内容は、指導者だけでなく、学習者も意識し、その伸長を評価(価値付け)することで、キャリアが形成されるとともに、次の学びへ活かしていくことができると考えます。



☆ 何を学んだか

◇ 『何を学んだか』 …… 学習内容(各教科・領域の内容につながる)

各教科・領域の単元、授業の中で子どもが達成する主眼です。

- 授業場面では、「めあて」との関連が強く、授業のゴールとなるものです。

☆ どのように学んだか

◇ 『どのように学んだか』 …… 学び方(キャリアにつながる)

学習内容を獲得する際のプロセスで、学びの進め方や見通しです。

- 学びをつくり出す4領域8能力と関連が強く、学習活動の工夫が効果を生みます。
- 学習者は、学習内容の獲得の過程で「うまくいったこと」、「改善したいこと」等の学び方に関する価値付けを行うことができます。

2 授業における評価のポイント

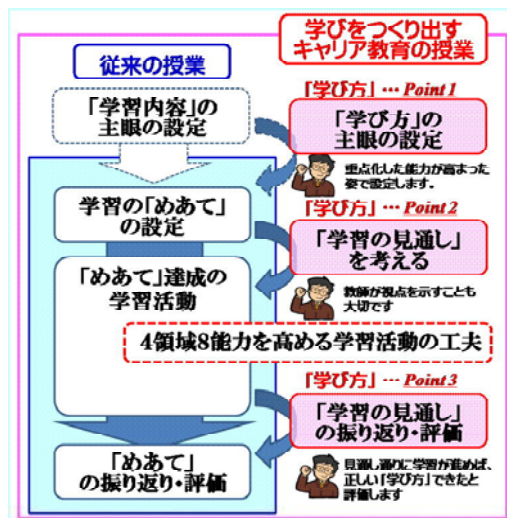
(1) 授業の流れ



では、「学習内容」や「学び方」を、指導者・学習者ともに意識し、評価する授業の流れは、どのようになるのでしょうか？

■ 右図のように、従来の「学習内容」の獲得のための授業の流れを基本に考えます。この流れに、重点化した能力が高まった姿としての「学び方」の主眼の設定 (Point 1)、その主眼を学習者が意識する「学習の見通し」を考える活動 (Point 2)、その振り返り・評価する活動 (Point 3) を明確に位置付けると、整理しやすくなります。

(* Point 1~3 は次で説明します)



(2) 3つのポイント

■ 上記の授業の流れをもとに、授業や単元を通して「学習内容」や「学び方」を評価していくことが大切です。ここでは、研究協力校との共同実践を通して明らかにした評価の進め方の3つのポイントを説明します。

☆3つのポイント



◆ 3つの Point ◆

- 1 『何を学ぶか(学習内容)』とともに『どのように学ぶか(学び方)』の両方の主眼を設定します。
 - 重点化した4領域8能力について、その授業でどのような姿を期待するのか、そのためにどのような学習活動を工夫するのかを、指導者が授業前に具体的に設定します。
- 2 「学習の見通し」を考える場面を設定し、「学び方」の主眼を共有します。
 - 設定した2つの主眼を、指導者だけでなく、学習者も共有する学習場面を設定し、学習者が「学び方」を意識して学習を進めたり、振り返ったりすることが可能になるようにします。
- 3 授業の終末に3分程度で行う評価を工夫し、「学び方」を価値付けます。
 - 授業の終末に、学習者が「学習内容」と「学び方」の両方を振り返る場を設定し、その内容やよさを指導者が振り返った内容に価値付けを加えます。

Point 1

○ 『何を学ぶか(学習内容)』と『どのように学ぶか(学び方)』の両方の主眼を設定します。

☆「学習内容」の主眼

● 『何を学ぶか(学習内容)』の主眼

■ 「学習内容」についての主眼は、従来通り、各教科・領域の学習内容と評価の観点を明確にして設定します。

ただし、各教科・領域の学習内容に「勤労観・職業観」が関連している場合には、その内容を中心に据えて主眼を設定することも考慮します。

【第1章：キャリア教育の基本的な考え方Ⅱ】

☆「学び方」の主眼

● 『どのように学ぶか(学び方)』の主眼

■ 「学び方」についての主眼は、学びをつくり出すキャリア教育の視点で設定する主眼です。重点化した4領域8能力をもとに、子どもの発達段階を考慮して、子どもの学習活動の様子でできるだけ具現化して設定します。



子どもの発達段階を考慮して…？

→ 第3章p38・p39の「学びをつくり出す4領域8能力一覧」を参考にしてください。

■ 久山町立山田小学校の第5学年算数、単元「小数の計算の仕方を考えよう」の授業では、次の様に2つの主眼を設定しました。

○ 「学習内容」の主眼

整数÷整数で、商が小数になる計算の仕方を考え、計算する。

○ 「学び方」の主眼

課題をよりよく解決するために、学習の進め方の計画を立て、それに沿って解決する。【計画実行能力】

Point 2

◎ 「学習の見通し」を考える場面を設定し、「学び方」の主眼を共有します。

☆学習の見通しを考える活動



■ 適切な評価を行うためには、授業の始めに指導者と学習者とその授業の目標を共有する必要があります。授業の終末でいきなり評価項目が出てきては、学習者は困惑してしまいます。そのために、

◎ 「学習内容」の主眼 → 従来通り、「めあて」を通して共有します。

◎ 「学び方」の主眼 → 「学習の見通し」を考える活動を通して共有します。

○ 「学習の見通し」を考える活動は、課題把握の流れに応じて、「めあて」の確認の前になったり、後になったりします。

■ Point 1 で紹介した山田小学校算数の授業では、「めあて」の設定および学習の見通しを考える活動を、次のように行いました。

○ 「めあて」

わられる数にわる数が1回も入らないときの、わり算の計算の仕方をいろいろな考え方と方法で考えよう。

○ 学習の見通しを考える活動【計画実行能力】

教師は、「①用いる考え方、②用いる方法、③個人での解決、④より簡単な考え方・方法の検討」の4つの視点を示し、児童に学習の見通しを考えさせました。児童が考えた学習の見通しは、

① 「0.1のいくつ分」や「mをcmに変えて」などの考え方を出し合う。

② 手分けをして言葉の式や線分図などの用いて解き方を考える。

③ 自分が選んだ方法で解決する。

④ グループで考えをまとめ、全体でより簡単な考え方・方法を選ぶ。

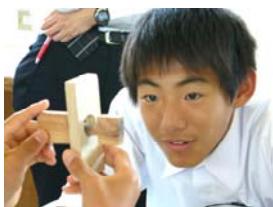


◆ 「学び方」の振り返りや評価は、授業の終末だけでなく、学習活動中に設定することも大切です。考えた「学習の見通し」がうまくいかない場合、その場で修正することが必要です。この取組も「評価活動」の一つと考えます。そうすることで、指導と評価の一体化が促進されます。

Point 3

◎ 授業の終末に3分程度で行う評価を工夫し、「学び方」の価値付けを行います。

☆「学習内容」の評価



● 「学習内容」の評価

◇ 従来通り、「めあて」の達成状況を自己評価を中心に行います。

- a) 「めあて」を自己評価する評価シートを記入する。
 - 達成状況の評価(A・B・C等)とその理由を記述します。
 - 「理由」の欄は学習者の発達段階を考慮し、学習のまとめの転記から始め学習内容を自分の言葉で説明、学習内容とその重要な根拠、学習内容のよさ等を記述していくように、内容を高めていきます。
- b) 学習者が自己評価を記述している間、指導者は記述内容を確認し、モデルとして後に紹介すべき数名を抽出します。

☆「学び方」の評価



● 「学び方」の評価

◇ 考えた「学習の見通し」の通りに学習を進めることができたかどうかの評価を行います。

- a) 「学習の見通し」の通りに学習を進めることができたかどうかを、○か×で簡単に評価します。
- b) ×の場合のみ、工夫や改善が必要なことを端的に記述させます。
 - 学習者の発達段階や授業の残り時間を考慮し、挙手による確認及び工夫や改善を口頭発表にすることも考えられます。
- c) 全体の場で、抽出した記述を「めあて」の評価と合わせて取り上げ、指導者のコメントを加え、価値付けます。

■ Point1・2 で紹介した算数の授業では、課題解決の途中で、教師は各班の解決が計画通りに進んでいるか評価して回り、必要な班には計画の修正と一緒に検討しました。終末の評価では、まず「学習の見通し」に対する評価を挙手で言い、次に「めあて」に対する自己評価を行いました。「学習の見通し」の評価では、殆どの児童が「見通し通りに学習を進めることができた」に挙手しましたが、「線分図と言葉の式の両方を組み合わせることを考えればよかった」と改善点を発表した児童もいました。下の資料は、「めあて」に対する自己評価の記述の例です。教師は、この児童の評価を取り上げ、「学習の見通し」通りに解決を進めることができたこと、特に見通しの①と④が大切であったこと、そのことで「めあて」が達成できたことを価値付けました。

【めあて】 わられる数にわる数が1回も入らないときのわり算の計算のしかたをいろいろな考え方と方法で考えよう。	
〈評価〉	〈理由〉 〈分かったこと・できたこと・感じたこと〉
④ 3・2・1	今までできなかった2÷4の計算が、見通して考えたように2を0.1の20回で考えると計算できることを説明できた。



◆ 「学び方」の評価は、授業の終末だけでなく、学習活動の途中にも意図的・計画的に設定すると、より効果があります。